

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和6年 10月 31日

事業所名: マルクスコラ山越教室

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない			
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	○			活動やメンバーに応じてスペースの確保や別場所での実施等随時検討している。	21	9	0	1	教室の広さそのものの改善は困難だが、活動内容等工夫することで、充実した活動を提供できるよう今後も考えていきたい。	
	2 職員の適切な配置	○				22	3	0	6	新しく来られた職員さんなど、どの程度の専門性をお持ちなのか、分からない方もいます。休職や異動の挨拶のように、ラインでもいいので、新しい方にも一言ご挨拶をいただくとありがたいです。専門性に関しては情報がすくないため、判断できません。専門性についてはよく分かりません。専門性については、どういう専門のスタッフが勤務しているのかわからない。でも、良くしてもらっていると感じています。	スタッフの異動時など、新たに加わったスタッフからの挨拶も今後は検討していき、スタッフのプロフィールや自己紹介等の掲示物を検討していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がい者の特性に応じた設備整備	○			プログラム時に目に入る前方には掲示物はほぼない形にしている。	26	3	0	2	わかりやすく整理されていると思う	生徒さんの特性に応じ、必要なものを整備し、本人のために必要かどうかという観点で今後も環境整備を検討していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	○				28	3	0	0	幅広い年齢の子供達が利用する事で、縦のつながりや異年齢との関わりを体験できる事は大切だと思うのですが、同年代の子達だけで活動できる日もあると、高校生は利用しやすいかなと思います。子供は楽しそうにすごしている。	今後、同年齢の子たちが集まってくかわれる機会を検討していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	○			日々支援の振り返り等実施している。どのようにすれば良いか意見を出し合うようにしている。						
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	○									
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	○			毎月支援に関する研修機会と、勉強会を別で実施している。						
適切な支援の提供	1 適切に支援プログラムが作成、公表されているか	○				28	3	0	0		
	2 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	○			アセスメント、計画書の作成時にはニーズを適切に取り扱うことを意識している。	30	0	0	1	日々行われる課題等についてはよく考えられていると思いますが、我が子には少し難しく、予約を入れる際に参加は無理かな...と思うことがあります。もう少し参加しやすい課題があればよりいいと思います。	プログラム内容については引き続きニーズに合わせて設定していく。各生徒さんが利用日に何をゴールとするかは、今後も個別に設定し、安心していただけるように努める。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	○				29	2	0	0		
	4 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	○			基本的には集団での活動を実施し、個別活動の時間も別途設けて対応している。						
適切な支援の提供	5 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	○				27	1	1	2	土日に人が集中しては入れないので些か支援に沿ったとは言いがたい	皆様に休日に偏らず平日にもご利用が分散するようにプログラム内容を今後も検討していく。
	6 チーム全体での活動プログラムの立案	○			アイデアBOXの活用、カレンダー会議の実施等、全スタッフが参画したり、聞き取ったニーズの反映がされやすい工夫をしている。						
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	○			カレンダー会議を実施した際には、バランスよくプログラムが入ることや、生徒さんにとってどのような意義があるかを考えながら設定している。	24	4	0	3	上記のアンケートで答えましたが、コミュニケーション能力、会話することに問題がある子供のための活動プログラムが増えると思えます。子供が楽しく活動できるように工夫しており、休日にはお出かけプログラムを取り入れてたり、体験を通しての学びがたくさんあるため、子供にはいい刺激になっています。	生徒さんが様々な経験の中で楽しいと思えるよう、活動内容の改善やご本人が楽しめているかニーズ整理など今後も行っていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
供 (続き)	8	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	○			活動時間の違いを活かして内容を工夫している。						
	9	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	○									
	10	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	○									
	11	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	○									
	12	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	○									
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	○									
	2	<b>(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)</b> 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施				該当なし						
	3	<b>(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)</b> 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備				該当なし						
	4	児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	○									
	5	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	○									
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	○									
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	○			エクセル丸榮文化祭という形で、同マンションのテナントを集結させた文化祭の実施をし、地域の子どもたちも招待したイベントを開催した。	7	4	2	18	他の放課後デイとの交流は知っていますが、それ以外は分かりません。	文化祭等で地域の子どもたちと触れ合う機会を作っているが、別の活動でもそういった活動を検討していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	○			エクセル丸榮文化祭の実施に際して、周辺のコンビニやお店に文化祭のポスター掲示を生徒さんと共に依頼している。						

